

1 年度始めに取り組むこと

初めて特別支援学級の担任となった年度始めは、何かと分からないことがたくさんあるかと思いますが、まずは、児童生徒・保護者が安心して学校生活をスタートできるように、必要な準備等について確認しましょう。

(1) 始業式までの準備



① 教室環境

教室は、日々生活し、学習する場所です。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて、児童生徒が安心でき、落ち着いて過ごせるように、安全で健康的な教室環境に心がけましょう。

まずは、校内のどこに特別支援学級の教室を配置するかを検討から始めます。安全性・学習や生活上の利便性・静かな環境の確保など、総合的な観点から検討を行いましょう。

環境の整備は、「ユニバーサルデザインの視点^{*1}」や「学校における合理的配慮^{*2}」にかかわる大事なポイントになります。



【参考】※1「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック」

山形県教育センターホームページ

(<http://www.yamagata-c.ed.jp/各種ダウンロード/研究成果/UD/>)

※2 ハンドブック巻末資料p96

<教室内のレイアウトの工夫（例）>

- 今ここで何をするのが分かりやすいように、学習、作業、休憩など、教室内でそれぞれの活動を行う場所を決め、仕切りを設置したり、休憩、着替えの場所に、カーペット、マット、畳などを敷いたりする。（活動と場所の一致）
- 課題に集中できるように、個別学習の際に、個人ブースが必要な児童生徒のためのスペースを、仕切りなどを利用してつくる。
- 怪我等防止のために、歩行、車椅子等の妨げにならないように、安全に移動できるスペースを確保する。また、机やロッカー等の角のある突起箇所には、安全カバーを付ける。
- 机やロッカー、提出物用カゴや道具棚などの配置を工夫し、児童生徒が活動しやすい動線をつくる。
- 床に目印を付けて、机や椅子を並べる位置を示す。
- 何をどう整理するのが分かるように、ロッカーや棚の中に入れるものの名前の表示だけでなく、絵や整頓された状態の写真を貼っておく。
- 個人のもものと、みんなで使う物との区別をしやすいように、置く場所を分けて示す。
- 教室内のレイアウトを替える際には、児童生徒に予告・説明をする。

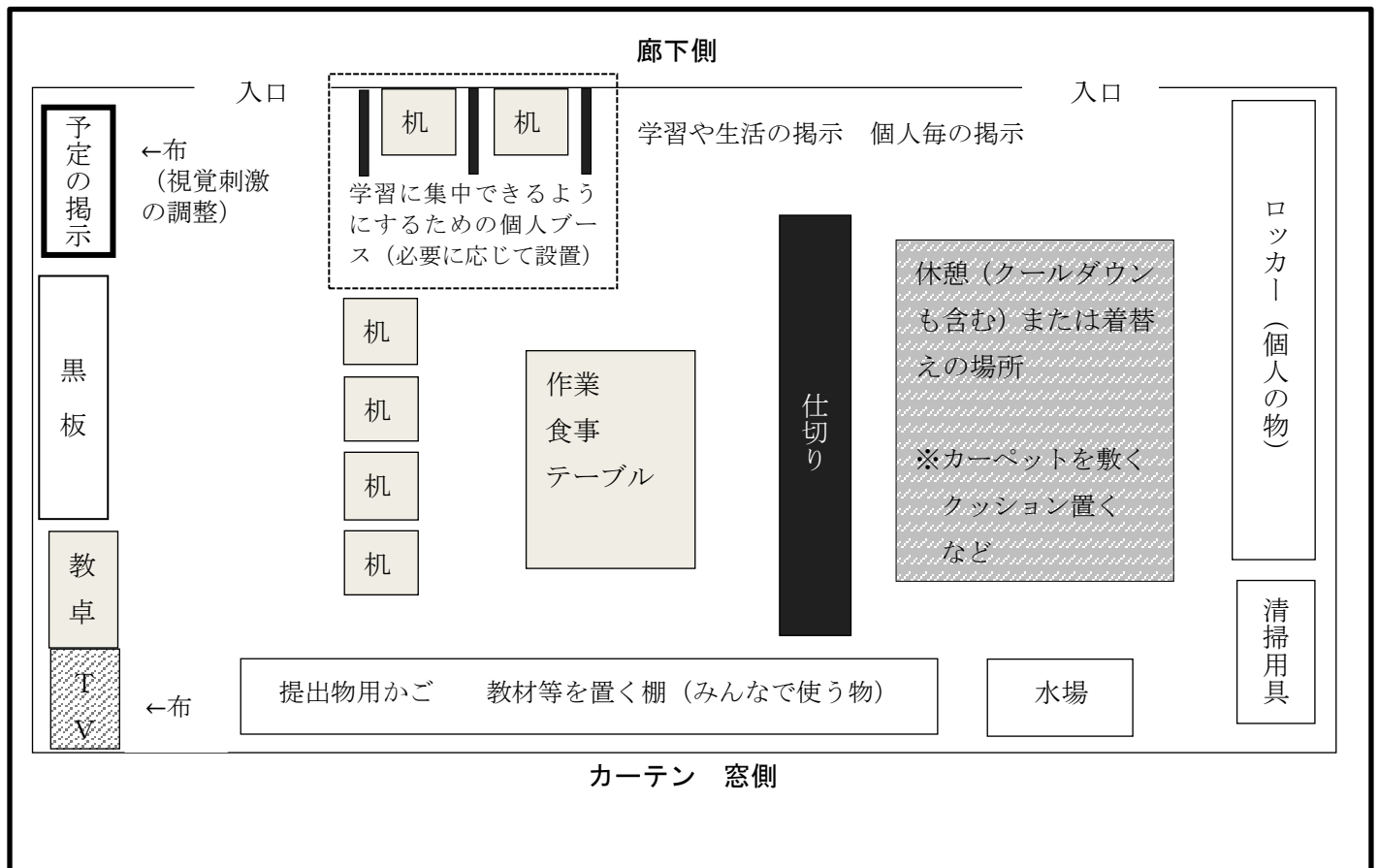


提出場所が分かるように提出物用かごを配置



ロッカーの整理の仕方を写真見本にして掲示

<教室内のレイアウトの図（例）>



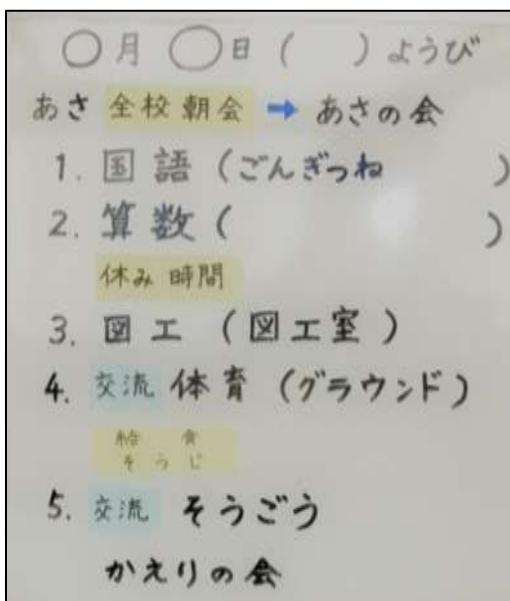
<視覚情報の調整・掲示や板書での配慮（例）>

- 学習に集中できるように、教室を整理するとともに、教室前面及び黒板とその周囲における余分な視覚刺激を減らす。
 - 必要のないときは、TV、各種棚、掲示物、教室外の風景等を、カーテンや布で覆う。
- 学習内容や、要点などを理解できるようにしたり、ノートをとったりしやすいような板書にする。
 - 適切な採光を確保し、座席から見える黒板の角度や光の反射などに配慮する。
 - 過度な色使いを避ける。板書の文字には、白や黄色のチョークを中心に使う。
 - 児童生徒が見やすい文字の大きさに合わせて書く。
 - 内容を精選し、要点を絞って板書する。端的な文章表現での提示に努める。
- 児童生徒が主体的に行動したり、安心して過ごしたりできるように、学校生活や学習の見通しがもてるようにする。
 - 時間割（学級・個人毎）、授業中の学習活動の流れ、学習活動や作業を進める際の手順など、視覚的に分かりやすい表示で示す。
 - 作業や活動の仕方、できあがりの状態などを表した絵や写真を掲示する。

1 年度始めに取り組むこと



棚の中の興味のある教材を
普段は布で覆い、授業中に
児童生徒の注意がそれない
ようにしている

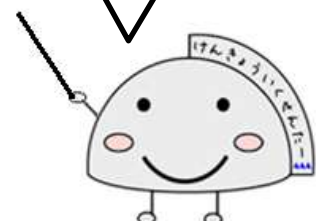


ミニホワイトボードを使って
1日の時間割を掲示



授業の流れや、内容が分かりやすいように板書を構成

児童生徒のいすに
座ってみたり、立っ
たときの目線の高
さで教室を見渡し
たりするなどして、
実際にどのように
見えるかを確認し
てみましょう。



<その他 障がい種別の特別支援学級における教室環境の主な留意点（例）>

弱視特別支援学級

- 安全確保のため、歩行の妨げになるものを置かない。置く場合は定位置を決め、空間の把握の妨げにならないようにする。また、机やロッカー等の角のある突起箇所には、安全カバーを付ける。
- 何がどこにあるか分かるようにするために、教材等を置く場所を固定する。移動する場合は事前に伝える。
- 教科書等が見やすいように、適切な机を選定し、必要に応じて書見台等を設置する。
- 学習や学校生活がしやすくなるように、ロッカーや必要な道具等に鈴をつけたり、シールを貼ったりするなどして、視覚以外の感覚（聴覚や触覚など）を活用できるように工夫する。
- 児童生徒の見やすい条件に合わせるために、照明の適切な明るさやまぶしさの調整（教室の全体照明や机上照明、反射光をおさえる黒板、カーテンの設置）を行う。



難聴特別支援学級

- 補聴器はいろいろな音を同じ音量で拾ってしまうので、雑音を低減するために、カーペットを敷いたり、机やいすの足にテニスボールをはめたりするなどの工夫をする。
- 音声言語と事物が一致するように、視覚的な情報も合わせて提示するなど、言語理解を助けるための視覚的な支援を工夫する。
- 教師の口元が児童生徒からよく見えるように、逆光にならないようにして正面に立つなど、話すときの教師の位置に留意する。



机やいすの足にテニスボールをはめて雑音を低減している

肢体不自由特別支援学級

- 移動がしやすくなるように、車いすでの移動、介助歩行やクラッチ（前腕型杖）を使用した歩行の妨げになるものを置かない。
- 学習（自立活動など）や休憩（水分補給・体ほぐしの運動など）などがしやすいように、効果的に使用できるカーペット、ソフトマット等を設置したスペースを用意する。
- 日常生活や学習面において、児童生徒が主体的に活動できるように、水道の蛇口レバーや電灯のスイッチ等、自分で操作できるような補助具を活用する。
- 適切な姿勢で学習できるように、児童生徒の実態に応じた机や椅子を活用する。



水道の蛇口レバー



車いすを使用している児童生徒が使いやすい机

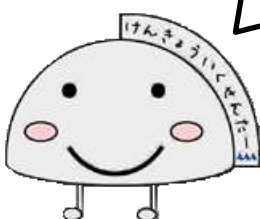
病弱・身体虚弱特別支援学級

- 学習（自立活動など）や休憩（水分補給・体力の回復など）などがしやすいように、効果的に使用できるようなカーペット、ソフトマット等を設置したスペースを用意する。
- てんかん発作時の転倒などの際の安全確保のため、机やロッカー等の角のある突起箇所には、安全カバーを付ける。
- 病状の安定を図るために、児童生徒の心身の状態に応じて衛生面や、室温、光量等を適切に管理する。



角に安全カバーを付けている机

必要に応じて、インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）を環境整備のための参考としてください。



インクルDB

検索

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

(<http://inclusive.nise.go.jp/>)



② 準備すること

児童生徒・保護者が安心して学校生活をスタートできるように、しっかりと準備をしましょう。

<学級経営上必要な物品等の用意>

教室や校内の環境について、児童生徒の実態を踏まえた安全性が確保されているかも確認しましょう。

- ☐ 出席簿
- ☐ 各種名簿
- ☐ 氏名印
- ☐ 指導要録
- ☐ 健康診断票
- ☐ 連絡網
- ☐ 連絡帳、使用するノートやファイル

- ☐ 教科書、副読本、学習用具
- ☐ 学級通信
- ☐ 机・椅子等の調整
- ☐ ロッカー、傘立て、靴箱などの割り当て
- ☐ 教室の掲示物
- ☐ 学級の事務用品や備品



<学校生活をスムーズに始めるためのチェックポイント>

☐ 年度初めの見通し

- ☆ 年度初めの一日の流れは？
- ☆ 当面の時間割は？
- ☆ 4月の予定は？
- ☆ 特別教室等の使用割り当ては？
- ☆ 学級費・教材費はどうする？

☐ 交流学級担任と確認

- ☆ 交流及び共同学習の内容、支援や配慮点は？
- ☆ 名簿や連絡網はどのように作成する？



☐ 保護者または前担任と確認

- ☆ 登下校の通学路や通学方法は？
- ☆ 児童生徒が個別に必要なものは？
- ☆ 特別支援教育就学奨励費についての手続きは？

障がいのある幼児児童生徒が特別支援学校や小学校・中学校の特別支援学級等で学ぶ際に、保護者が負担する教育関係経費について、家庭の経済状況等に応じ、国及び地方公共団体が補助する仕組みです。

対象とする経費は、通学費、給食費、教科書費、学用品費、修学旅行費などがあります。

※ 事務担当者と確認



前担任との引継ぎ、保護者との面談などを通して、まずは健康上や指導上の留意点についてしっかりと実態を把握しておくことが大切です。就学前の場合には、前年度のうちに、体験入学や学級見学などの機会を設定し、本人や保護者から、担当者が直接情報を得ておくことが考えられます。

その他、児童生徒の教育支援にかかわる資料、個別の教育支援計画や個別の指導計画、つながりのある関係機関の文書などからも、児童生徒の実態について詳しく知ることができます。

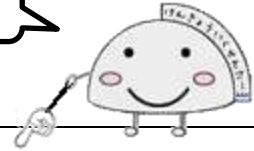


③ 関係者との連携

年度初めは、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成するに当たって、情報収集・確認等が必要になります。

※個別の教育支援計画・個別の指導計画については、ハンドブックp48～51参照

主に「誰と」「何を」確認するのか、下の表を参考にしてみましょう



＜個別の教育支援計画の作成にあたって＞

対象（誰と）	内容（何を）
特別支援教育コーディネーター	作成手順・作成上の留意点 各種情報（障害のある子供の教育支援の手引、検査結果、過去の資料等）
本人・保護者	本人のプロフィール 本人・保護者の願い（生活・学習・進路等） 合理的配慮について ＊本人・保護者の申し出に対して、校内での検討及び本人・保護者との合意形成を経た上で、提供する配慮の内容を記載します。
保護者	学校以外の関係者とのかかわり（支援の状況、活動内容等） ・福祉サービスの利用（送迎、放課後等デイサービス等） ・医療とのつながり（主治医、通院状況等） ・地域とのつながり（学童保育、スポーツ少年団、子供クラブ活動等）
校内委員会（次ページ参照）	支援の方針 支援の内容・方法

在籍児童生徒が「やまがたサポートファイル※」を使っていることもあります。必要に応じて保護者・本人と確認の上、参考にすることも考えられます。



＜個別の指導計画の作成にあたって＞

対象（誰と）	内容（何を）
特別支援教育コーディネーター	作成手順・作成上の留意点 各種情報（障害のある子供の教育支援の手引、検査結果、過去の資料等）
本人・保護者	本人の実態 ＊実態については、前担任や交流学級担任、教科担任、養護教諭、学年主任など、様々な視点からの情報も、必要に応じて確認しましょう。 本人・保護者の願い（生活・学習・進路等）
特別支援教育コーディネーター・交流学級担任・教科担任	長期目標 短期目標 目標達成に向けた具体的な手立て 指導や支援の内容・方法



児童生徒の実態、目標、支援の内容等については、前担任からの引継ぎ資料などを参考にしながらも、毎年確認が必要です。

※ 発達障がい等の支援が必要な方の個性や必要な配慮などの情報をファイリングしていくものです。

詳細については、やまがたサポートファイルで検索してください。

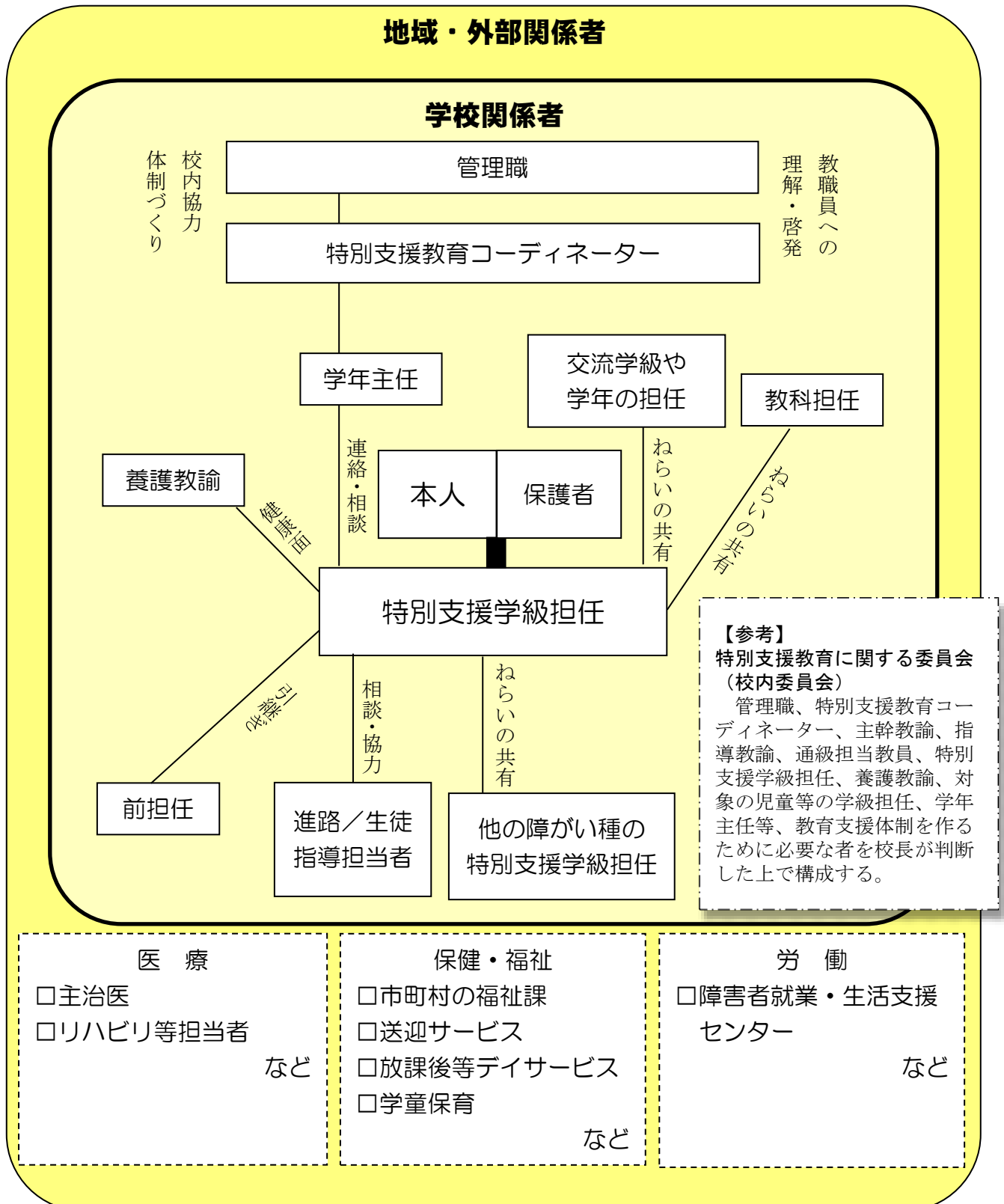
<https://www.pref.yamagata.jp/090004/kenfuku/shogai/hattatsu/support-file-standard-self.htm>



【参考】

以下は、今後の学級経営において、つながりをもつことが必要な関係者との連携図になります。詳しくは、この後の「4 学級経営 (8) 情報発信と連携 (p78～84)」を参照ください。

<連携図>



(2) 始業式・入学式での配慮



～児童生徒が喜びや期待をもって、スムーズに学校生活をスタートできるために～

事前に一日の動きを想定し、学校全体で必要な支援や配慮について確認しておきましょう。

初めて受けもつ場合、まだ十分な信頼関係がとれていない状態で、初日一人に対応するのは大変なことかもしれません。必要な点については、朝から校内の協力を得られるようにしましょう。

保護者は、最初の学校行事を通して、担任の丁寧な対応の仕方や心遣い、児童生徒への穏やかなかわり方などに安心感を覚え、その後の信頼関係へとつながっていきます。

また、保護者からみれば、担任だけでなく、学校全体の特別支援教育に対する姿勢としてとらえる機会になりますので、学校全体で共通理解に立って取り組むことが大切です。

<始業式・入学式までに学校全体で確認しておくこと>

【児童生徒のことについて】

- ☐ 児童生徒の体調や様子（ここ数日の様子と当日の朝、健康や安全面における留意点）
- ☐ 昨年度までの行事への参加の様子から予測されること

【式の前までのことについて】

- ☐ 式のプログラム、時間、会場レイアウト
- ☐ 当日の朝の動き（登校の仕方、待機場所と過ごし方、交流学級とのかかわり、トイレ）
- ☐ 入退場時の移動経路、移動方法
- ☐ 並び順、座席の位置、前後左右の児童生徒の確認
- ☐ 入学式での呼名者、呼名の仕方、返事の仕方

【式の最中のことについて】

- ☐ 式中の具体的な支援や配慮
（場面（起立、礼、着席、唱歌、待つ）に合わせた言葉かけ、場所の目印や指示カードなどのツール）
- ☐ パニックや発作など、ハプニング時の対応、支援
（休憩や退場の仕方、移動場所、サポートする教員）
- ☐ 式での付き添い、一日を通しての役割分担（特別支援学級担任、交流学級担任、養護教諭、その他の教員）
- ☐ 保護者の動き（担任への体調等の連絡、保護者の座席の位置、必要に応じた対応）

【式が終わってからのことについて】

- ☐ 式後の動き、学級での指導（学級に戻ってからの活動、担任の自己紹介と抱負、当面の予定、教科書や学級通信等の配付物）

本人や保護者とも当日の動きや対応について確認しておくことが大切です

見通しがもてなかったり予定が変更になったりすると、パニックになる児童生徒もいます。すぐその場から離すだけでなく、その場で落ち着ける方法を考えておくことも大切です。

また、式の前に、児童生徒に会場を見学できるようにして座席等を確認したり、簡単な動きをリハーサルしたりしておく、不安が少なくなることがあります。前担任や保護者から具体的な対応について聞いておくことが必要です。

保護者の中には、特別支援学級への入級に、内心複雑な思いを抱いている場合もあります。交流学級や学年の動きなどについてもお知らせしながら対応しましょう。

始業式や入学式での配慮は、他の行事や集会などにおいても、引き続き大事にしていきたい内容です。集団での活動が苦手な児童生徒に対しては、決して無理をさせることのないように留意する必要があります。様々な場面をとらえ、その児童生徒にとっての課題の緩和・調整・回避の対応の仕方について考えていきましょう。

